

# 令和5年度 保育園(3園)・子どもの家 事業計画

## はじめに

現在の保育情勢は人口、出生数の減少、少子化が進む影響で、2025年をピークに園児数が減少するといわれている。しかしながら女性の就業率が増加傾向にあることから保育ニーズはしばらく横ばいが続くと考えられる。幼稚園は45年前から園児減少の一途を辿っているが、特に1, 2歳児の保育園を利用している割合が50%を越えるといった状況(20年間で20%から50%に増加)である。一方で、50%は家庭保育を行っており、孤立しやすい親への支援、無園児問題が注目されている。これまでの「選ばれる保育園」に加え、「必要とされる保育園」を目指し、中期経営計画2027を策定した。

## 1. 事業計画の概要

中期計画のビジョンとして「育ち合うクラスづくり」「地域が求める子育て支援の実現」～0歳から12歳の途切れない保育へ～を掲げ、地域ニーズに応じた子育て支援の充実を軸に波及する形で構成され、結果的に園の運営が安定した財務状況になる事が望む姿である。地域との関りを持たないで過ごす家庭の増加とともに情報過多による不安定な保護者、配慮を要する子どもが増加傾向にある中、無園児問題等、家庭支援、地域支援の必要性が保育園に求められている。個々の家庭環境、親の価値観によって適した対応が違うこと、子どもへの柔軟な保育が当たり前であることを共有し、乳児期に必要な基本的信頼感・非認知能力に関しても将来を見据えたものと位置づけ、情緒が安定した中、子どもたちが過ごせるように環境づくりを行う。

これらを、こども家庭庁が描く「こどもまんなか社会」の視点で①施設環境②保育者③安全衛生④組織運営を「保育の質」として具体的な実践と学習の中で向上していきたいと考えている。

## 2. 財務の視点

### (1) 収入の最大化と内容の充実

- ・全園利用定員を満たし経営の安定を図る。  
0歳児の確保に努め、その動向により1歳児枠を広げるなど定員のコントロールを行い財務の安定を図る。
- ・地域子育て支援拠点事業・一時預かり事業を充実してゆくことで入園に繋がる可能性も含め一体的に事業を進めていく。
- ・子どもの家の利用児童も増加傾向にある事から、更に内容の充実(障害児への対応等)に努める。

## 3. 顧客の視点

### (1) 保育の継続性

- ・配慮を要する子どもの増加に対して、家庭背景を含め個々に応じた対応が出来るように保護者や連携機関との連携を大切にし、情報を共有する。
- ・園児に関わりのある療育機関との連携により、個別的保育実践を行う
- ・保護者アンケートを基に、保育内容・教育プログラムの見直しを図る。
- ・保育ドキュメンテーションの配信を目的に、学び、その方法を確立する。

### (2) 地域ニーズに応じた子育て支援

- ・大中小規模保育（乳児）のリーフレットの作成を行い広告する。
- ・保護者アンケートを基に子育て支援プログラムの充実を図る。
- ・地域子育て支援拠点事業・一時預かり事業の利用者に対し、アウトリーチ型支援の展開を見据え、支援計画やケース会議を試みる。
- ・地域子育てサロンをサポートし、ボランティアや地域住民からの情報を得る。
- ・乳児院と協働し、BP1プログラムを実施する。
- ・乳児院と協働し、乳幼児総合支援事業の展開を模索する。
- ・保護者達が気軽に集える場所の提供を行う。

#### 4. 内部プロセスの視点

##### (1) 自園の強みを明確化

- ・第三者評価の受審により自園の事を知る。（今年度は乳児保育園）
- ・乳児、幼児、学童の接続強化のための事例検討会を実施する。
- ・公開日の設定と見学随時受け入れ、0歳～12歳の継続性を説明する。
- ・療育機関と連携する。
- ・小学校と連携（荏田北小と接続カリキュラムを確立）

##### (2) 情報発信の仕組みづくり

- ・スマホアプリによる保護者アンケートを実施する。
- ・園紹介（HP・ブログ）と動画配信等の情報発信のスキルアップ研修に参加する。
- ・行政機関との連携に努め、各種連絡会・要対協会議・こども相談センターとの会議等に参加する。

##### (3) 雇用環境の改善

- ・給与支給の仕方（見せ方）の変更。賞与の一部を月給に反映させる。
- ・公休数増を図る。105日から110日へ。
- ・非正規職員の定年制と再雇用時の時給設定を見直す。（正職員に準じた改善）
- ・年休取得率の向上と時間外労働の減少

##### (4) 組織運営体制の強化（保育の質の向上）

- ・法人組織運営体制に沿った各委員会の設置
  - ① リスクマネジメント委員会
  - ② ケア（保育）の質を考える委員会
  - ③ 防災・災害対応委員会
  - ④ 研修委員会

#### 5. 学習と成長の視点

##### (1) 人材育成（選ばれる園になるために）

- ・個別研修計画の作成と研修のフィードバックを実施する。
- ・保育園経営に関する制度・要綱等を計画的に学ぶ。勉強会の開催（管理職層）
- ・若い世代の活躍の場を増やす環境づくり、子育て支援、地域活動に業務の一環として経験、学習する。
- ・事例検討を通じ、情報共有と学びの機会を設ける。
- ・保育士養成校とのつながりを強化するために、実習生・インターンシップの受け入れ増員と学校訪問を定期的実施する。
- ・労働条件の見直しを図る。（四恩の働き方委員会へ参加）